

授業科目(ナンバリング)	コア語 I A (AC117)			担当教員	※宋 映沃		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本科目は、「基礎的な韓国語でのコミュニケーション能力の修得」及び「韓国文化の理解」を授業の目標とする。具体的には、ハングル文字の仕組みや構造を学び、読み書きができる、簡単な日常会話が話せるようになる。様々な視聴覚資料を用い、韓国文化に触れながら、楽しく韓国語を身につけていく。							②⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正しく理解し、読み書きができる。 ・簡単な日常会話をペアで行うことができる。 				定期試験 小テスト 授業態度	60% 10% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	韓国語や韓国文化に対し、積極的関心を持ち、課題に意欲的に取り組むことができる。				課題レポート	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>◎定期試験（穴埋め式、リスニング、筆記式等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字の仕組みや構造を理解し、読み書きができるかを評価 ・日常会話の表現をどれだけ身につけたかを評価 <p>◎小テスト（8回目に20分程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なクイズ形式で授業中に習った単語や表現を理解し、覚えているかを評価（フィードバックは、授業中に適宜行う。） 							
授業の概要							
<p>基本的に、韓国語の会話能力養成に主眼を置きながら、韓国文化への理解、韓国語の文字であるハングルの修得から丁寧に指導する。まずは、「読む」、「書く」の練習からスタートする。授業中は韓国関連のDVD・スライドなど活用し、韓国文化に直接触れる機会を設ける。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎</p> <p>参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語 I・II 会話トレーニング</p> <p>指定図書：新装版 「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
ハングルという未知なる世界との知的な遭遇に必要なのは「チャレンジ精神」のみである。受け身的な態度ではなく、積極的な姿勢が求められる。韓国や韓国文化に興味を持ち、自分なりにスクラップや重要な部分をチェックしておくことが大事である。理解の難しい事項については、気軽に教員に声をかけていただきたい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	シラバスを中心に、本授業に対する全体的な説明を行う。当授業全体の要旨、授業の進め方、教科書、評価の方法等について概説する。	シラバスを用い、授業の要旨、目標など確認する。授業の振り返り。
2	母音字	まず、ハングルの創製の理由、背景等ハングルを誰が何のために作ったかを説明し、本格的に10の母音字を習得する。	授業で習ったハングル文字を復習し、次回の授業範囲を予習する。
3	子音字1	英語のアルファベットのような、それぞれの固有の発音を持っているハングルの子音字を中心に書く、発音の練習を行う。	授業で習ったハングル発音を復習し、次回の授業範囲を予習する。
4	子音字2	特に、発音に有意しながら前回に続き、ハングルの子音字を習得する。初めて全体的な母音字と子音字を組み合わせる練習を行う。	授業で習ったハングル発音を復習し、次回の授業範囲を予習する。
5	ハングル表	ハングルの中には平音に対比する激音という体系が存在する。それを習得した上、濃音の構造と発音の練習を行う。	授業で習った文字を復習し、次回の授業範囲を予習する。
6	合成母音字1	10個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字を習得する。合成母音を単母音と区別しながら発音の練習を行う。	授業で習った合成母音を復習し、全体の文字をもう一度学習する。
7	合成母音字2	10個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字を応用し語彙の練習を行う。	授業で習った合成母音を復習し、全体の文字をもう一度学習する。
8	小テスト	小テストを実施する。	今まで習った母音字、子音字、合成母音を復習し、小テストに臨む。
9	韓国の文化1	韓国の文化を楽しもう-1	韓国の若者文化に触れながら、ハングルの発音を復習する。
10	韓国の文化2	韓国の文化を楽しもう-2	韓国人の日常生活が窺える映画を用い、日常会話を復習する。
11	パッチム	文字の構成もどんどん複雑になり、難しく感じる学生が多くなる時期。ここで諦めたらこれまでの努力が台無し。ハングル独特な仕組みのパッチム（終声字）というのをマスターしよう。	授業で習った文字を復習し、次回の授業範囲を予習する。
12	2つのパッチム	前回勉強したパッチムの中には2つのパッチムが存在する。特に、発音の場所が大事になるので、それができるまで何度も練習しよう。	授業で習った文字を復習し、全体の文字をもう1度学習する。
13	発音変化1	ハングル文字の発音変化をクリアする。	授業で習った部分を復習し、次回の授業範囲を予習する。
14	発音変化2	ハングル文字の発音変化をクリアする。	授業で習った部分を復習し、次回の授業範囲を予習する。
15	発音変化3	残りの発音変化をクリアする。	授業で習った部分を復習し、自然な発音に慣れる。定期試験の準備学習。
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビューし、定期試験に備える。

授業科目(ナンバリング)	コリア語 I A (AC117)			担当教員	※金 允妍 (キム テヨン)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本授業では韓国語のコミュニケーション能力を高めるための基礎を築く。入門のクラスであるため、韓国語の文字、語彙、文法を中心に授業を行う。言語は人が住む社会や文化と深く関わっているため、互いの異なる言語や文化にも触れるようになり、異文化に関する理解を深めることもできる。							①⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	韓国語や文化についての知識を持っている。				・ 中間試験 ・ 定期試験	10% 15%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	簡単な韓国語の表現を使用して会話をすることができる。 学習した内容を応用して新しい文を作り出すことができる。				・ 中間試験 ・ 定期試験	10% 25%	
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して、授業中に与えられた課題を果たすことができる。				・ 授業への参加(取り組み)	10%	
多様性理解力	ハングル文字を正しく読み書きすることができる。 韓国語や韓国文化理解に積極的に取り組み、授業内外でコミュニケーション能力を高めることができる。				・ 授業態度 ・ 中間試験 ・ 定期試験	10% 10% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価は、定期試験の結果 50%、中間試験の結果 30%、授業態度・授業への参加を 20%とする。 ・ 8 回目の授業で中間試験を行う。 ・ 中間試験、定期試験では筆記試験で文字、語彙、文法、コミュニケーション能力などの理解を総合的に評価する。 ・ 中間試験の結果については後日の授業で説明を行う。 							
授 業 の 概 要							
<p>本授業は入門クラスで、ハングル文字の読み書き、発音の練習、基礎語彙、基礎文法を総合的に行う。毎回の授業は教科書の内容に従って進める。1 年間(30 回)の授業を通じて 1 冊の教科書をマスターすることを目標にして韓国語における基礎知識を固める。</p> <p>標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：金殷模・権來順・宋貞熹・文慶喆 著 『かんたん韓国語』 朝日出版社</p> <p>参考書：特になし</p> <p>指定図書：任榮哲・井出理咲子 著 『箸とチョッカラク』 大修館書店</p>							
授 業 外 に お け る 学 修 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間だけの学びではなく、常に韓国に興味をもち、自ら学ぼうとする姿勢をつけてもらいたい。 ・ 授業中におけるペアー・グループでの発音練習と会話練習に積極的に参加すること ・ 学習を効果的なものにするため、教科書、ノート、筆記用具を忘れずに持参し、活用すること 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス 文字と発音編 第1課 コリア語について	シラバスを基に本授業に対する全体的な説明を行う。 コリア語とは何かについて学ぶ。	シラバスを読み授業内容を理解する。振り返り。
2	第2課 文字と発音 (1)	基本母音について学ぶ。	予習:母音とは何か、韓国語の母音を調べる。練習:基本母音を覚える。
3	第2課 文字と発音 (1)	基本子音について学ぶ。	予習:子音とは何か、韓国語の子音を調べる。復習:基本子音を覚える。
4	第3課 文字と発音 (2)	子音の激音と濃音について学ぶ。	予習:韓国語の激音と濃音について調べる。復習:激音と濃音を覚える。
5	第4課 文字と発音 (3)	合成母音について学ぶ。	予習:合成母音は基本母音とどう異なるかを調べる。 復習:合成母音を覚える。
6	第5課 文字と発音 (4)	パッチム (받침) について学ぶ。	予習:パッチムについて調べる。復習:パッチムを覚える。
7	第2課～第5課 文字と発音のまとめ	ハングル(文字)をまとめて整理する。	予習:ハングル(文字)を整理する。復習:発音できなかった部分を練習する。
8	前半のまとめ 中間試験	筆記試験を実施する。	中間試験の準備
9	文法と会話編 第1課 韓国人ですか。	名詞文の叙述・疑問について学ぶ。	予習:本文を声に出して練習する。復習:練習が足りなかった部分を復習する
10	第2課 学生ですか。	名詞文の叙述・疑問について学ぶ。 「漢数字」について説明する。	予習:韓国語の数字を調べる。復習:新しい単語と漢数字を覚える。
11	第3課 何時ですか。	時間の言い方について学ぶ。 「固有数字」について説明する。	予習:固有数字を練習する。 復習:時間を聞いて答える練習をする。
12	第4課 野球選手ではありません。	名詞文の否定形について学ぶ。	予習:本文を音読する。 復習:名詞文の否定形を暗記する。単語を覚える。
13	第5課 これは何ですか。	指示代名詞を学ぶ。	予習:韓国語の「こ・そ・あ・ど」について調べる。 復習:実際の場面を思い、本文の会話を練習する。
14	第6課 どこにありますか。	存在文の叙述・疑問について学ぶ。 「位置」を表す語彙を紹介する。	予習:位置(前、後、横など)は韓国語で何か調べる。 復習:本文の会話を言えるように練習する。
15	第7課 何をしますか。	用言文の叙述・疑問について学ぶ。	予習:本文を声に出して練習する。復習:韓国人留学生に週末には何をするかと韓国語で質問してみる。
16	定期試験	筆記試験を実施する。	定期試験の準備

授業科目(ナンバリング)	コア語 IA (AC117)			担当教員	※権 容善		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本科目は、基礎的な韓国語を学習する。韓国語の文字の理解および簡単なコミュニケーションができ、韓国の文化についても触れることを授業の目標とする。具体的には、韓国語（ハングル）の文字の仕組みや構造を学び、読み書きができるようになる。また、様々な視聴覚資料を用い、韓国文化に触れながら、楽しくコア語を身につけていく。</p>							②⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングルを読む、書くことができる。 ・単語を使用することができる 				定期試験	20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングルを使用した簡単コミュニケーションをことができる ・簡単な日常会話をペアで行うことができる。 				小テスト 授業態度 定期試験	20% 10% 20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	韓国の文化を理解することができる。				課題レポート 定期試験	20% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験（50％）では、ハングルの読み書きができるかを確認し、授業中学んだ単語が理解できているか、また、コミュニケーション能力と多様性について理解しているかを確認する。小テスト（20％）は、2回の筆記式（10％）、1回の会話式（10％）で評価を行う。また、課題レポートは、韓国の文化について調べて、発表することで評価する。具体的な課題の内容については、授業中に説明を行う。また、必要に応じて、授業内でコメント及び課題のフィードバックを行う。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>本授業は、韓国語の基礎を学習することを目的としながら、韓国文化への理解、韓国語の文字であるハングルの修得から丁寧に指導する。まずは、「読む」、「書く」の練習からスタートし、今後の仕事にも活用できる簡単な会話を学習する。授業中は韓国に関連するDVD・スライドなど活用し、韓国文化に直・間接的に触れる機会を設ける。また、将来、仕事に役に立つ韓国語を学習する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：新装版「できる韓国語初級」著/新大久保語学院 李 志暎 参考書：できる韓国語 初級/ワークブック、できる韓国語Ⅰ・Ⅱ会話トレーニング 指定図書：新装版「できる韓国語 初級」 著/新大久保語学院 李 志暎</p>							
授 業 外 に お け る 学 修 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と							
<p>韓国語の授業では、積極的な姿勢が求められる。今まで、触れたことがない方が多いと予測されるが、まずは、積極的に取り組み、韓国語や韓国文化に興味を持つことが大事である。また、理解の難しい事項については、気軽に教員に声をかけていただきたい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンスおよび基本挨拶	シラバスを中心に、本授業に対する全体的な説明を行う。また、授業中で使用する基本的な韓国語の挨拶について練習する。	予：配布プリントを確認 復：授業内容を振り返る。
2	基本母音	①ハングルの創製の理由と、科学的な構造について学習する。②10個の基本母音について習得する。また、授業中で使用する基本的な韓国語の挨拶について練習する。	予：授業で指定した内容を調べてくる。教 pp. 8-9 復：基本母音を活用した5個の単語を覚える。
3	基本子音 1	英語のアルファベットのような、それぞれの固有の発音を持っているハングルの子音字を中心に書く、発音の練習を行う。また、授業中学習した文字を活用し、5個の単語を覚える。	予：教 pp. 10-9 復：授業中の課題を完成し てくる。
4	基本子音 2	1. 発音に有意しながら前回に続き、ハングルの子音字を習得する。初めて全体的な母音字と子音字を組み合わせ て練習を行う。また、自分の名前を韓国語で書き、覚 える。	予：教 pp. 15-16 復：友たちの名前を5名ま で韓国語で作成してくる。
5	ハングル表	1. ハングルの中には平音に対比する激音という体系が 存在する。それを習得した上、濃音の構造と発音の練習 を行う。2. あいさつ①	予：教 pp. 17-19, pp. 36-37 復：授業中提示した課題を してくる。
6	韓国の文化 1	韓国の文化を楽しもう-1	予：好きな韓国の歌を選ん でくる。 復：韓国の文化について、 まとめる。
7	合成母音字 1	1. 10個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字 を習得する。合成母音を単母音と区別しながら発音の練 習を行う。2. あいさつ②	予：教 pp. 8-9、教 pp. 36 -38 復：授業で習った合成母音 を復習し、全体の文字をも う一度学習する。
8	小テスト	ハングルの文字およびこれまで学習した部分について、 小テストを実施する。	予：小テストを準備する。 今まで習った母音字、子音 字、合成母音を復習し、小 テストに臨む。
9	合成母音字 2	1. 10個の基本母音文字を組み合わせた、合成母音字 を応用し語彙の練習を行う。 2. 第1課 저는일본사람 입니다①	予：教 pp. 40-41。 復：授業で習った合成母音 を復習し、全体の文字をも う一度学習する。
10	パッチム	1. 文字の構成もどんどん複雑になり、難しく感じる学 生が多くなる時期。復習しながら、ハングル独特な仕組 みのパッチム（終声字）というのをマスターしよう。 2. 第1課 저는일본사람 입니다②	予：pp. 教 20-23, pp. 42-43 復：授業内容を確認する。
11	2つのパッチム	1. 前回勉強したパッチムの中には2つのパッチムが存 在する。特に、発音の場所が大事になるので、それがで きるまで何度も練習しよう。 2. k-Pop 音楽を用いたハングルの活用①	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する。
12	韓国の文化 2	韓国の文化を楽しもう-2	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する。
13	自己紹介	文字から離れて、簡単な自己紹介を作成し、練習する。	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する
14	発音変化 1	ハングル文字の発音変化を学習する。	予：授業範囲を読む 復：授業内容を確認する
15	発音変化 2 および 小テスト	残りの発音変化を学習する。また、13回に学んだ自己紹 介をみんなの前で発表する。	授業で習った部分を復習 し、自然な発音に慣れる。
16	定期試験	定期試験を実施する。	今まで習った内容をレビ ューし、定期試験に備え る。